

## 令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立阪本小学校

## 学校の教育目標

・思いやりのある子    ・よく考える子    ・たくましい子

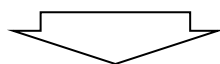
教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

・基礎・基本の定着を実感させるとともに、自ら学んだという達成感を味わわせ、自信をつけさせる。

令和4年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話し合いの内容を聞き取る」ことにやや課題がある。(学習力サポートテストの結果・授業中の児童の様子)</li> <li>・「漢字を書く」ことに大きな課題がある。(学習力サポートテスト・日常のテストの結果)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、話し合いの経験が少ない。</li> <li>・普段から文章を書く際に、習った漢字を積極的に使う意識が低い。家庭学習でも漢字練習の時間が少ない。</li> </ul>
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年の「□を使った式」にやや課題がある。(学習力サポートテストの結果)</li> <li>・コンパスや三角定規などを使用する作図に課題がある。(授業中の児童の様子)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立式において自分の考えを言葉や図を使って説明する機会が少ない。</li> <li>・用具などの操作が苦手である。</li> <li>・算数用語の定着が不十分である。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識理解は高いが、資料から情報を読み取ることが苦手な児童が多い。(学習力サポートテストの結果)</li> <li>・身近な社会的事象に関わる内容理解が低い。(学習力サポートテストの結果、授業中の児童の様子)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識として理解したことを、生活とつなげて考えられていない。</li> <li>・学習過程において、資料を収集したり、活用したりする経験が少ない。</li> <li>・コロナ禍により生活経験が乏しかった。</li> <li>・社会科見学のバスの日程が固定しているため、調整が難しく、希望の見学場所に行くことができなかった。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の育ち方や動物など生き物の様子に関する知識理解が低い。(学習力サポートテストの結果)</li> <li>・天体や自然の事象に関する内容理解が低い。(学習力サポートテストの結果)</li> <li>・電気の単元に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物を育てる環境が学校及び周辺に少なく、生き物に触れる機会が少ない。</li> <li>・冷暖房完備のビルで1年中生活しているため、自然事象や自然環境の変化を実感しづらい。</li> <li>・電気の単元は、単発な単元なので、復習する機会が少なかった。</li> <li>・屋上校庭で屋根があるため、太陽やかげなどに日常的に触れていない。</li> </ul>

英 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベットや単語など「書くこと」に課題がある。(授業中の児童の様子)</li> <li>・日常生活に関する対話から目的や場面、状況を推測することに課題がある。(学習力サポートテストの結果)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話したり聞いたりする学習が中心となり、アルファベットや単語などを書く時間が少ない。</li> </ul>
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトボール投げと長座体前屈と握力に課題がある。(体力調査の結果)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールなどを投げる経験やぞうきんを絞る経験などが不足している。</li> <li>・一定の負荷の中で運動を継続する経験が不十分である。</li> <li>・城東小学校さんと校庭を2分していたため、休み時間の遊びに制限があった。</li> <li>・柔軟体操などを継続的にできていない。</li> </ul>
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	異学年や大人に適切な言葉や言い方で、伝えたいことを伝えたり、聞きたいことをインタビューしたりすることができる。 漢字の確実な定着を行う。
	算数・数学	複数の方法で答えを導き、図や式を用いて説明できるようにする。 算数用語の定期的な振り返りを行い、定着させる。
	社会	調べたり、学んだりした内容を自分の身の回りの生活と結びつけて考えることができるようにする。
	理科	身の回りの自然や現象に触れ、体験する活動に積極的に取り組めるようにする。
	英語	様々な活動を通して英語のアルファベットや単語を、体験的に学んでいけるようにする。
	体育・保健体育	ICT機器を活用し、自己の課題を見付け、対話的に解決することができるようにする。
②授業改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を効果的に活用し、児童の興味・関心を高め、個に応じた指導にも重点を置く。</li> <li>・「個」→「ペア」→「全体」→「個」の学習サイクルを継続的にを行い、筋道を立てて自分の考えをもつ問題解決型の授業スタイルを確立する。</li> </ul>
③家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と学習指導や生活習慣に関する指導の共有を図るために、年3回の児童との面談、年2回の保護者との個人面談を実施する。</li> <li>・1人1台タブレット端末を家庭との連携で積極的に活用する。</li> <li>・保護者アンケート「保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすくても内容も適切である」の肯定的回答90%以上を達成する。</li> <li>・classroomを活用し、日々の課題などを発信する。</li> </ul>
④体力向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の運動量の確保とマイスクールスポーツを推進し、長期休業中の家庭での取組に向け、課題カードを作成する。</li> <li>・体力調査の結果を前年度よりあげるよう、日常および体力向上月間で取り組む。</li> <li>・体力向上の意識を児童にもたせ、児童アンケートで「自分の体力づくりに取り組んでいますか」の肯定的回答85%以上を達成する。</li> </ul>



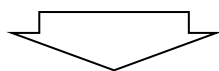
## 【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	新しい言葉や漢字の学習では、ただ覚えるのではなく、意味を自分で調べてから練習し、使い方についても繰り返し書くようにする。
算数・数学	低学年のうちから定規を使った直線の引き方、長さの測り方が身につくよう、ノートの書き方や工作などで意識して指導を行う。
社会	インターネットで検索して調べるだけでなく、実際に自分の目で見て調べる、資料をもとに考えて発見し、課題解決するような学習を多く取り入れる。
理科	屋上校庭の学校園、坂本町公園での植物や生き物の観察は、自分の木や場所を決めて定点観察するなどの機会を増やし、方法も工夫して行っていく。
英語	フォニックスを用い、発音の規則や語順等を体験的に学び、単語の語彙を豊かにする。
体育・保健体育	体育館のボルダリングを休み時間開放して自由に取り組めるようにする。教室に握力計や握力トレーニング機器を設置し自己の目標を決めて取り組めるようにする。
②授業改善	
取組Ⅰ	課題の設定や解決の方法を児童自らが考え、思考を深める課題解決型の授業スタイルを工夫する。
取組Ⅱ	単元のまとめの学習では、学習内容が日常生活とどのようにつながるかを考えさせる発問をする。

③家庭との連携	
取組Ⅰ	年2回の保護者との個人面談を通して、学力調査の結果や学習の方法を説明する。普段から児童にも保護者にも相談しやすい体制を作る。
取組Ⅱ	タブレット端末の活用、学校だより、学校評価アンケート等の送信、家庭学習キャンペーンの年3回実施を通して、家庭での学習の充実を図る。

④体力向上	
取組Ⅰ	体育朝会や授業の中で、マイスクールスポーツの「なわとび」を中心に、運動の質を高めたり、運動量を確保できる場の設定を工夫したりするとともに、鉄棒やうんていなどを活用し、「つかむ」感覚を大切にしたい授業計画を立てる。
取組Ⅱ	「できる喜び」を多くの児童に実感させるために、体育指導補助員を活用して、個別指導を進める。

## 【取組結果の検証】



学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	部首に着目する児童が増え、定着が見られた。	形を捉えにくい児童や、生活経験が乏しく、部首と漢字の意味が関連付けられない児童がいる。
	算数・数学	答えを求めることだけでなく、題意を捉え、様々な解法を見付ける習慣ができてきた。	用具の操作には課題が残った。算数的な活動など、楽しんで用具を操作したり、算数の用語を使ったりする機会を増やしたい。
	社会	インターネットを活用して、調べたり、まとめたりする力が高まった。一つの資料から事実を捉える力は高まってきている。	複数の資料を関連付けて考える力をさらに伸ばしたい。そのために事実と自分の考えを明確にし、話し合う活動を増やしたい。体験的な活動はまだ少ないので、地域資源を生かした校外学習を行いたい。
	理科	復習や家庭学習を増やしたことで、知識の定着はみられた。	体験が少ない現状は変えられていない。経験が少ないため、短期記憶になりやすく、時間が経つと忘れてしまうことが多い。坂本町公園を有効活用していきたい。
	英語	フォニックスや単語、英語表現などを音楽やゲームを通して、楽しみながら身に付けることができた。	高学年のライティングに課題が残った。家庭学習で取り組めるような課題を用意するなど、英語を書く機会を増やしたい。
	体育・保健体育	運動量を確保した授業展開を基本として、学習に取り組むことができた。	各領域の運動の楽しさにより触れられるような活動になるよう、教材を検討していく。
② 授業改善	課題解決学習を取り入れたことで、主体的に考える児童が増えた。 生活経験と学習を結び付けて考えることができる児童が増えた。	総合的な学習の時間や特別活動等との関連を強め、日常生活との関わりを感じさせる機会や、自ら解決し、表現するなど、アウトプットの機会を増やしたい。	
③ 家庭との連携	家庭学習キャンペーンでは、家庭での学習の様子が可視化され、学習に取り組みにくい環境にいる児童に個別で支援することができた。また、タブレットPCで宿題の内容を家庭と共有することで、しっかりと取り組むことができた児童が増えた。	基本的な生活習慣が身に付いていない児童もいる。また、学力を向上するためにも、家庭で体験的な活動を増やせるように声かけを行っていきたい。	
④ 体力向上	体育朝会や運動委員会の取組で、運動する機会を増やすことができた。体力テストに向けて、個人に課題設定をしたことで、意欲が高まった。ボルダリングの開放で握力の高まりも感じられた。	体力を向上する機会を計画する。ボルダリングの開放については、曜日を指定し、安全管理態勢のもと、充分に行えるようにする。	